



サイの御教え

ババ様五十四歳の御降誕祭の御講話  
この任務は勝利する

時代時代にダルマが脇に置かれた時、  
愛に満ちた方法でダルマを再び確立するために、  
世界が争いと混乱で汚された時、  
徳と平和の道を取り戻すために、  
残酷な輪廻に囚われた善人たちが嘆き悲しむ時、  
彼らを苦痛と悲しみから救うために、  
聖典が正しく解釈されていない時、  
聖典が人類に説いているメッセージを語るために、  
地球から悪徳の重荷を取り除くために、  
トレーターユガ〔ラーマが降臨した時代〕に交わした  
約束を果たすために、  
アチュタ〔不死なるヴィシュヌ神〕が地上に化身し、  
ヴァースデーヴァすなわちシリールハリ〔ヴィシュヌ神〕が  
この世にやって来た。

どの人のハートの中にも、揺らぐことのない永続する至福アキダダに到りたい、という悩ましい願望が存在します。昼夜を問わず一生の間、人はその段階に到るために一瞬も休むことなく努力しています。それでも、それは自分の手の届かないところにあると思うのです。

その理由は何でしょう？ 人のこの失敗の根本原因は、自分を体や五感だと考えて、体や五感の喜びが至福を授けてくれる、それが自分の飢えを満たしてくれる、と思っているせいです。人は、自分こそが自分の求めている至福である、ということに気づいていません。ウパニシャッドは、こうした点に関するあらゆる疑問を明らかにしています。「粉は椰子糖によって甘くなる」と述べられています。米粉であれ、小麦粉であれ、豆粉であれ、もともとから甘いのではなく、椰子糖や砂糖を加えて混ぜることで、粉全体に甘さが広がるのです。ウパニシャッドの教えが伝えているのは、創造世界「自然界」は粉であり、神性原理は砂糖である、ということなのです。そのおかげで、自然は私たちを魅了し、惹き付けるのです。音楽を聞いたり、調和を目にしたり、崇高なものを体験したりした時に私たちの心を打つものは、つねに神性であって、自

然ではありません。

### 知識を得る確かな方法

神は「計り知れないもの」(アプラメーヤ)であると描写されています。これは、神を限界のある諸現象と同じように計ることはできない、という意味です。その栄光を垣間かいま見させることができるのは、ヴェーダだけです。このことを指し示すために、神は「ヴェーダを通じて知られる者」(ヴェーダヴィト)と呼ばれています。聖典に述べられているように、知識を得るには三つの確かな方法があります。それは、

- (一) 直接認識 (プラティヤクシャ)
  - (二) 推測 (アヌマーナ)
  - (三) 信頼できる声 (シャブダ)
- という方法です。

人は、牛乳が乳酸菌を混ぜられてヨーグルトになるのを目で見ることができます。それによって、その現象は「直接認識」(プラティヤクシャ)によって立証されたものとして、事実と見なされます。

山並みから煙が立ち上がれば、人は森林火災だと「推測」します。

ブラシャーンティ ニラヤムに来たことがある人は、来たことのない人にこの場所について説明し、それによつて、ここに来たことがない人もブラシャーンティ ニラヤムとその環境を思い描くことができます。これは知識を得る一つの方法である「信頼できる声」の一例です。声（シャブダ）は、経験から生じた時、そして、その経験を誠実に伝えた時に、受け入れられるもの、信頼できるものとなります。

### 神の不変なる根本的な特質

この講堂に座っている大勢の人々の間に、アメリカから来た人物、アメリカのサティヤサイ評議会の一員がいます。彼の名前はディックボックといいます。これまで誰も彼のことを見たことがないとしましよう。彼は背が高いとか低いとか、年寄りであるとか若いとか、これこれの身体的特徴があると説明されても、彼を見つげ出すのは容易なことではないでしょう。しかし、私が声

に出して「ディックボック」と呼べば、彼は皆に見えるように立ち上がるでしょう。神も、あなたが神について描写したり、神を称えたりしても、簡単には目の前に現れて応じてはくれません。生まれた時、あなたには何の名前もありませんでしたが、自分に「付けられた」名前と呼ばれば、いつでもそれに応じてきました。同様に、神には名前はありませんが、神は求道者が付けた数多くの名前のうちのどれでも、呼ばれば、それに応じるのです。永遠不変の存在を立証する一つ方法としてのシャブダ（口での証言）には、明らかな特徴（タタシタ）と根本的な本質（スワルーパー）という二つの側面があります。

訪問者が捜している家を、私たちが特定して示すには、「あのカラスが止まっている家です」などと言えば、相手は理解します。それはその家の一時的な特徴です。神という永遠なる絶対者は、一時的な姿で描かれ、称賛され、崇められ、ラーマ神やクリシュナ神、ヴィシュヌ神やイーシュワラ神といった限定された範囲の中で崇められます。それらは、絶対神の本質の基本的、根本的なものを表現するものではありません。それらは、地上に平

和をもたらすこと、正義の規範を復興すること、至高者への信心という理想を強めることといった、特定の重要な目的のためにまとった姿にすぎません。

一定不変の根本的な特性は、真理（サツティヤム）、英知（グニヤーナム）、無限性（アナンタム）です。これはブラフマンの本性（スワルーパ）です。これらの特性は、時間や場所や見る者の性質によって変わることはありません。これらの特性は、時間と場所と状況にかかわらず一貫しており、私たちはそれらを、存在（アステイ）、意識（バーテイ）、歓喜（プリヤム）、名前（ナーマ）、姿形（ルーパ）という五つの側面の中に知覚します。このうちの三つ、存在（アステイ）、意識（バーテイ）、歓喜（プリヤム）が基本で、他の二つ、名前（ナーマ）、姿形（ルーパ）は、変化するもの、表面的なものです。これらの特徴はどれも、内在者であり作り手であり一因である創造主を必要とする、というのは議論の余地のないことです。

自然は動くが神は動かない

太陽、星、月、海、大地——これらはどれも、私たちが受け入れなければならぬ作り手を指し示します。二つの原因が存在し、何であれ、その二つが一緒になって創ります。その二つとは、形作る者と維持する者です。この銀のコップには、これを作った職人とその職人が形作った銀がなければなりません。創造の過程について深く調べれば、どちらの原因も、一なるもの、すなわち、実在と気づきと至福の化身に融合する、ということがわかるでしょう。その一なるものが一切なのですから、一切の中にそれを認識することは完全なる至福をもたらすのです。

どの人も二つの願いを持っています。それは悲しみから逃れることと、喜びを獲得することです。二つの願いが実現した時、人は真に自由になります。それはムクティ（解脱）を得たということです。ムクティという段階の純然たる意味を知らずに、自分は無神論者であるとか合理主義者であると言って自慢している人たちは、自分はそのものに興味はないと言いつちます。ムクティとは、前述の人間の普遍的な二つの欲求が満たされることです。文言や議論は人に道を迷わせ、実在を見えなく

してきました。人は、行いの道や、探求の道や、礼拝の道に沿って行けばムクティに到るのでしょいか？ 議論は論点を霧で覆うだけでしょ。これらの道はただ、心を浄化し、知性を澄まし、情動を清めるだけです。

もしすべての物事、すべての存在のアートマ（神）の芯が認識されるなら、いつも至福は存在し、至福で満たされるでしょう。神の原理とは、実体であり、土台であり、エッセンスであり、その上で波が上がっては下がる海です。名前と姿（これらは上がったり下がったりする）を捨て去って、すべての細胞と粒子の中味である、存在（アステイ）、意識（バーティ）、歓喜（プリアム）を黙想しなさい。そうすれば、永遠の至福に浸ることができます。至福は遍在です。人はその普遍性のみを認識しなければいけません。

愛の化身たちよ！動く物には、動かない基盤が必要です。自然は動きますが、神は動きません。バスや車は道路でスピードを出しますが、道路は動くことなく静止したままです。映画の映像はスクリーンと平行に素早く動いたり飛んだりしますが、スクリーンは動くことも飛ぶこともありません。体は大きくなったり衰

弱したりし、感覚器官は一つまた一つと次々に快楽を追い求め、心はこう考えたかと思えば別のことを考えてピョンピョンと飛び跳ねますが、それはひとえにアートマン（アートマ／本当の自分／内在の神）が動かないでじっとしているからなのです。

アートマンは最高の至福を授ける者

さて、人はどのような特性によってアートマンを認識することができるのでしょうか？ それはまさにアートマンの本質である至福によつてです。だからこそ、アートマンは、ニッティヤナダム（永遠の絶対的至福）、パラマスカダム（この上ない歓喜を授ける者）、ケーヴァラム（唯一なる者）、グニヤーナムールティム（清らかな英知の具現）、ドヴァムドヴァーティータム（あらゆる二元性を超越している者）、ガガナサドルシヤム（空よりも大きい者）、タットワマッスヤーディラクシヤム（汝はそれなりという大格言によつて示される者）、エーカム（一なる者）、ニッティヤム（永遠なる者）、ヴィマ

ラム（純粹なる者）、アチャラム（不動なる者）、サルヴァデーハ（すべてを意識している者）、サークシプーターム（すべてを見ている目撃者）、バーヴァティータム（想像によっても届かない者）、トリグナラヒタム（三属性〔鈍性・激性・浄性〕を持たない者）、等々と描写されるのです。

概して、この世界の物は、誰かに求められることもあれば、別の人には拒絶されることも、嫌われることもあります。その理由は、その物にあるのではなく、心にあります。好き嫌いは本人の行動や考えや感情によって形成されます。もしあなたの反応が良いものであれば、あなたは私を良く言います。もしあなたの感情が悪いものであれば、私のことが悪く見えるでしょう。一つの態度から別の態度への変化は、あなたの中で起こるものであって、私に起こるものではありません。私はいつとも同じです。姿形をまどつているので、反応の揺れは避けられません。それらは人間のものであり、神に影響を及ぼすことはできません。

嫉妬深い心はいつも悪に従事することになる

反応の性質とアプローチの方向の変化は、瞬時の気まぐれ、欲望の回転やねじれ、環境や領域や時間によるプレッシャーによって引き起こされます。昨夜、皆さんは学生によるイエスの劇を見ましたね。ユダという名の一番の愛弟子は、何枚かの銀貨という低次の誘惑に屈して、主を裏切ることになりました。金銭欲は、弱い人に付け込んでくる悪魔です。それにやられてしまうと、人は一切の識別力を失い、その欲を満たすための容易で不正な方法を受け入れるようになります。

サティヤサイの比類なきパワフルな衝撃が世界的に広まって以来、妬みと金銭欲に打ち負かされた多くの無知な人々がバラタ文化を過小評価し、誹謗中傷するための悪意に満ちた作り話を紡いでいます。嫉妬深い心はいつも悪いことに従事することになります。これは、神が人類の間に降臨したどの時代でもそうでした。しかし、そうした策略があっても、やるべき仕事がつまづくことなく、勝利が遅れることはありません。

キリストの行いはすべて清らかで神聖だった

あなた方はこの真実に特別な注意を払わなければなりません。それは、どんな類の欠点であれサイに欠点があると指摘することのできる人は存在しない、という事実です。サティヤサイはプレーマ（純粹な愛）の化身であり、その本質の意味するものを探ることのできる人は、当然ながら、ほとんどいません。その本質は、完全に無私であり、完全に清らかで、完全に神聖です。サティヤサイはその本質の化身であり、提唱者であり、大陸から大陸へとそれを広めています。嫉妬深い人たちは、その愛が人々を変容させて前進していくのを見て、嘘を用いてその妨害をしようとします。求道者と志のある者たちの注目が、今、ますますバラタの伝承や文化に向けられているために、大勢の心の狭い人、心のねじ曲がった人たちが、それらに非難を浴びせようと試みています。私が出たて来た目的である仕事は、近いうちに世界中に響きわたるでしょう。すべての信仰はそれぞれ一なるものの一つの面である、すべての道は同じ目的地に続いている、という真実が、一部の人々を刺激しています。

あなた方は、イエスの劇の中で、イエスが強調していた善良で神聖な生活の基本的な真実がいかにして誤って解釈されたか、宗教の指導者たちにさえいかにして誤って解釈されたかを見ましたね。彼らは中傷と嘘を用いて自分たちの欠点を隠そうとしました。彼らはイエスに拷問を課すという陰謀さえめぐらせました。イエスのすべての行いは清らかで神聖なものであり、無私な愛で満ちていました。自分の宗教を崇拜するのは良いのですが、それが他の宗教への憎悪によって汚されるべきではないようにすべきです。それよりも、人を聖化する神の愛の流れ、人を支える神の愛の流れを味わうことに従事しなさい。それは永続する至福アーナンダをもたらしてくれるでしょう。

サイはいつも光り輝くアートマンである。実は、このカリの時代「カリユガ」は、四つの時代の中で最も恵み深い時代です。なぜなら、あなた方は今、自分たちの中に、あなたが近づき、礼拝し、学びを得ることのできる姿を持った、永遠なる至福アーナンダの化身を有しているからです。あなた方は、私と共に歌い、私と話をし、

自分の目と耳とハートを私の語る言葉と行動で満たして  
います。これは五大元素で形成された単なる肉体ではな  
く、また、あなた方は今日は私の誕生日だと言いますが、  
そうではありません。この体には誕生日はあるかもしれ  
ませんが、私には誕生というものはありません。あなた  
方は私を五十四歳だと言いますが、私には数えられる年  
齢はありません。

入口も出口もない永遠なる者

過去も現在も未来もない一なる者

生も死もない不滅の人物

つねに光り輝いているアートマン

それは、永久なるサイである

私の一方の側には崇拜がヒマラヤの山のように高まっ  
ています。もう一方の側には中傷がヒマラヤの山のよう  
に積み上げられています。しかし、私はどちらにも影響  
されません。先ほどゴーク博士が述べたように、私は  
どちらの山の頂上にも自分の手を置いて、その正反対の  
反応の上に等しく私の祝福を降り注ぎます。昼のあると

ころには夜もあります。しかし、どちらも同一の太陽が  
引き起こしているのです。平静でいなさい。あなたの手  
の届くところにあるこの幸運から利益を受けるために努  
力しなさい。

セヴァ「無私の奉仕」という、最も善を生みだす靈性  
修行に従事しなさい。あらゆるセヴァの方法の中で一番  
のものは、長い間おざりにされてきた農村の人たちに  
セヴァすることです。あなたの技能とエネルギーを、村  
に住む兄弟姉妹の向上のために捧げなさい。奉仕は神で  
す。なぜ神は人に体と心と知性を授けたのでしょうか？  
心で感じ、知性で計画し、奉仕を必要とする人のために  
体を使つて奉仕しなさい。その奉仕の行為を神に捧げな  
さい。その花で神を礼拝しなさい。サティヤサイが広  
めている理想の数々を日々実行に移し、その理想の偉大  
さの生きた手本として進み出ることによって、全世界に  
その理想を知らせなさい。

一九七九年十一月二十三日

プールナチャンドラ講堂にて

Sathya Sai Speaks Vol. 14 C43